

スタンプラリー in 日野宿 2023 (第 107 弾)

令和 5(2023)5 月 13 日 (土)「スタンプラリー in 日野宿 2023」を開催しました。予報どおりあいにくの空模様でしたが、277 名(スタンプ帳頒布数)の参加がありました。

コロナ禍から漸くかつての日常に近づく一步を踏み出したところでしたので、家族連れの姿がいつもより少なかったのがちょっと残念でしたが、それでも毎回楽しみに参加してくださる皆さんの姿をおみかけし思わず微笑まずにはられませんでした。足元の悪いなか参加して下さった皆さん本当にお疲れさまでした。

ゴールでは、10 か所以上のポイントを回っていただいた方に、大型スタンプの柄をあしらった 20 種類の缶バッジのなかからひとつを景品として、また先着順で、佐藤彦五郎新選組資料館、井上源三郎資料館、松盛堂、旧猪鼻輪業から提供していただいた特典景品をお渡しました。

なお、イベント開催にあたり、昨年からは個人ボランティアをはじめ、中学生、高校生、大学生、自治会、老人会、商店会など多くの皆さんのご協力をいただいています。今年は約 180 人もの皆さんに支えられたスタンプラリーとなりました。まさしく地元ぐるみで作り上げるおもてなしイベントとなってきました。参加者の皆さんとの会話も楽しみですが、各ポイントにおけるスタッフの世代間の交流も深まったようで本当にうれしい限りです。

開催にあたりご支援ご協力いただいた多くの皆さんに心より御礼申し上げます。



スタート地点の日野駅東



坂下地藏尊前



ギャラリーカフェ大屋



ゴール地点 日野宿本陣前

「まち活 2023」で日野宿発見隊をPR！

同年6月3日（土）に開催された「まち活 2023」で、日野宿発見隊の活動を紹介しました。

NPO法人ひの市民活動ネットワーク／日野市ボランティア・センターの共催である「まち活」は、日野市内の市民活動団体が活動を紹介し、新しい仲間を募ることにより、市民活動をより活性化させることを目的としたイベントです。今年はイオンモール多摩平の森（3Fイオンホール）で行われました。

会場には発見隊らしく「まちかど写真館 in ひの」から代表的な写真を展示する他、これまでの刊行物も展示し、実際に手に取っていただきました。

また、「スタンプラリーin日野宿」で使用している巨大スタンプ（日野駅開業130年）も特別に用意し、ポストカードに自由に押印してもらいました。（Y. I. 記）



人気の大型スタンプ



日野宿発見隊初代事務局長

渡邊生子さんが他界されました。

同年7月2日（日）日野宿発見隊初代事務局長 渡邊生子さんが亡くなりました。72歳の誕生日をもうすぐ迎えようというところでした。

平成18(2006)年6月、日野市立日野図書館が地域の皆さんと日野宿発見隊というグループを立ち上げました。そこにはカウンターで利用者を待つだけでなく積極的に地域に飛び出し、今、図書館が何を求められているのかを知ろうとする日々の努力が大切だと渡邊さんの思いが込められていました。



それからの7年間、生子（本当は「せいこ」と呼ぶところを「なまこ」と呼ばれる）さんは日野図書館の分館長として、皆さんからいただいたアイデアをもとに地域の人たちといっしょに、「日野宿こども発見隊」を皮切りに、「まちかど写真館 in ひの」、「日野駅開業120周年事業」、絵本「ひのっ子日野宿発見」の刊行など、振り返れば、その7年間はまるでマジックを見せられているような実に活気に満ちた取り組みを展開させました。日野宿発見隊の活動が図書館活動と一体化した本当に充実したときでした。いつも笑顔で誰にでも公平に接する生子さんは地域の皆さんから慕われ日野宿発見隊の顔そのものでした。

定年後、生子さんは以前からの夢を追い、お連れ合いと宮城県栗駒市に移住しましたが、新たな土地でも地域の皆さんと共生し第二の人生をまさに謳歌している矢先でした。最愛のお連れ合いに旅立たれた夫の信雄さんたちご家族のみなさんのことを思うと言葉になりませんが、今はただただ生子さんのご冥福をお祈りするばかりです。

最後になりますが、生前大変お世話になった日野宿の皆さんに故人に代り心より御礼申し上げます。

第17回子ども発見隊

夏休み！親子で調べよう日野用水（108弾）

同年7月22日（土）新東光寺地区センター（日野市栄町3-14-1）前の用水で第17回子ども発見隊「夏休み！親子で調べよう日野用水」を開催しました。このところの猛暑で開催が危ぶまれましたが、朝からわずかに曇り、また用水も前日の降雨により水嵩もあがり用水観察にはほどよい状態での開催となり何よりでした。

参加者は子ども17名、大人13名とスタッフ9名（事務局2名）の計39名でした。今回はいつもより高学年の子の参加が目立ちました。

オリエンテーションの後、早速用水に入り、井上、清水隊員等のアドバイスを受けながら、網を使って生き物捕獲に挑戦。約1時間でカマツカやザリガニなどいつものようにたくさん生き物に出会うことができました。

《今回見つけることができた水辺の生き物》

・ザリガニ ・ヤゴ(4種類) ・ヌマエビ ・カワムツ ・カマツカ ・

カタツムリ ・ハグロトンボ

こうして捕まえた生き物は、桜並木の木陰で、井上隊員や鈴木隊員からレクチャーしてもらったあと、すべて用水に帰しました。



このあと地区センターに上がって涼みながら、事務局の日野図書館職員から日野用水やそこに生息する生き物などについての本の紹介と読み聞かせをしてもらい、最後に井上隊員からお土産にカブトムシのプレゼントがありました。

コロナの影響でなかなか自由な行動が取りにくい子どもたちにとって、歴史ある日野用水で過ごした体験が楽しい思い出となってくれたら幸いです。

日野第一中学校生有志と用水清掃（番外編）

同年7月13日（木）午後、日野第一中学校の生徒有志50名と日野宿発見隊メンバー5名で学校周辺を流れる用水路を清掃しました。水草やポイ捨てされたゴミ等を取り除くこと約1時間。あるだけのボランティア袋を使い切り、最後は緑と清流課の皆さんに回収してもらいました。前日、八王子市で39.1度と全国一の最高温度を記録するなど、このところの酷暑のなか、生徒の皆さん、本当にお疲れ様でした！



約1時間でこれだけの収穫？

第16回八坂の祭り写真展（第109弾）

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行によりようやく以前のような日常が戻りつつあるなか、いつもとは少々異なる形とはなりましたが宮神輿の渡御が再開されました。

日野宿発見隊では同年9月1日（金）から30日（土）まで、恒例の八坂の祭り写真展を開催させていただきました。八坂神社の玉垣25点、南側フェンス26点、森町消防器具置場壁面15点、竹間家駐車場フェンス5点、日野駅前3点（20日まで）並びに日野図書館正面玄関前9点、明治期から令和4年までの写真、計83点を展示しました。



八坂神社玉垣



八坂神社南側フェンス



森町消防器具置場壁面



竹間家駐車場フェンス



日野駅甲州街道側(9月20日まで展示)



日野図書館正面玄関前

大貫良雄さんが他界されました。



同年9月9日(土)金子橋の大貫良雄さんが亡くなられました。97歳とのこと。大正15(1926)年のお生まれといたしますから、日野橋が開通した慶事の年で、日野宿内でも最長老とっていい方でした。大貫家は100年前ぐらいに豊田から日野宿に移ってきたそうで、戦時中は徴用で日野自動社に勤務し、その後兵役につき、飛行機の整備をしていたそうです。昭和22(1947)年から再度日野ゼーゼルに勤務し、その後、昭和26(1951)年5月から京王バスに勤務し昭和60(1985)年に退職されたそうです。

ご自宅をお訪ねしたとき、奥さまと愛車で全国を旅された話や幼いころの日野宿の昔話を楽しそうに語られる穏やかなお顔が思い出されます。大貫さんは日野宿発見隊の行事にもよく顔を出され、励ましの声とともに資金援助などもしていただきました。令和元(2019)年8月24日(土)に開催された「日野駅130年よもやま話の集い」で貴重な証言

をしていただいたのが最後となってしまいました。まだまだ日野宿の歴史を語っていただきたかっただけに誠に残念でなりません。

これまでのご支援に感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

まち歩き会「下ノ宿尻から日野の渡しへ」（番外編）

同年11月8日（水）、秋晴れの中、まち歩き会を実施しました。今回は、日野宿発見隊内の勉強会として日野宿発見隊から4名、その他5名の計10名が参加。下町下河原にお住いの鈴木邦夫隊員が案内人となって日野図書館前の甲州街道の下ノ宿（宿場の東端）から北に歩いて日野の渡しまでのおおよそ700mの短い距離を3時間かけてじっくりと探索しました。見学のポイントはおおよそ以下の通りです。

- ・日野宿を流れた水路の流れとその地形
- ・下ノ宿 宿尻の位置
- ・古文書に記録される伊能忠則の測量
- ・空襲にあった下町下河原と防空壕
- ・移転を繰り返す福地蔵
- ・用水路にかかる13本の橋
- ・スポーツ公園から発掘された中世の板碑
- ・昔の地名と施設名、電柱等に残るその痕跡
- ・日野の渡し

福地蔵では、昔、参加者の中から「おこもりさま」（お地蔵様を自宅にお迎えし一晚接待する）のためにリヤカーで重たい福地蔵を自宅まで運んだという思い出話も飛び出しました。残念ながら、この慣習はすでに途絶えているので、記録すべき大変貴重なお話だったと思います。

鈴木案内人の熱心な古文書・史料研究と、地域の方々からの聞き取り調査によって実現できた今回のまち歩き会。知れば知るほど謎が深まる郷土の歴史をもう一度学びたくなりました。（Y. I. 記）



旧日野銀行



福地蔵



日野宿発見隊 YouTube チャンネルに

新たなコンテンツをアップ

昭和 30 年前後から 40 年前後の日野宿の映像計 22 点をホームページに新たにアップしました。仲町の池田孝行さん（2 点）と故東尚士さん（20 点）のお二人により撮影された 8 ミリフィルムをデジタル化した貴重な映像です。



第 20 回子ども発見隊「行灯をつくろう」（第 110 弾）。

同年 12 月 16 日（土）午後 3 時から 5 時の 2 時間、第 20 回子ども発見隊「行灯をつくろう」を開催しました。参加者は子ども 4 名+幼児 1 名と保護者 4 名でした。

日野宿発見隊副代表の Y さんの御手本の行灯を参考に、まず 2 枚の半紙におもいおもいの絵を描いたあと、それをあらかじめ用意された枠組みに、お母さんといっしょに糊を使って貼り付けました。その後、残り 2 面にスタンプラリーでお馴染みの大型スタンプを押した半紙を貼って完成。この貼り付けが行灯製作で一番むずかしいところなのですが、お母さんとのチームワークよろしく無事クリアー。

この後、できあがった行灯を普門寺まで運び、ご住職のご厚意で扉を開けていただいた本堂前に飾らせてもらいました。ご本尊の大日如来様を照らす荘厳な灯りを背景に、四つ
の行灯の仄かな灯りがまた素敵な雰囲気醸し出していました。

今回の参加者は1年生、4年生、6年生と幅がありましたが、それぞれの学年らしい行灯になったようです。また、今回の参加者は少なかったものの、お姉ちゃんといっしょに参加してくれた幼児のおかげで、会場がとてにぎやかになり楽しい雰囲気となりました。

大人の勝手な欲望に翻弄され平安な日常を奪われた子どもたちが世界に数限りなく存在するこの時代に深い憂いを覚えつつ、ひとときの救いを感じたこの日の行灯づくりでした。



お母さんといっしょに
半紙の貼り付けに挑戦！



大日如来様が見守る前で
お姉ちゃんといっしょに記念撮影

歴史的建造物を通して学び、味わう講座

～日野宿発見隊編～（番外編）

令和6(2024)年3月14日(木)、「多摩地域の住宅史 歴史的建造物を通して学び、味わう講座」と題し、たましん地域財団が発行する『多摩のあゆみ』『建築雑想記』執筆でもお馴染み、一級建築士・酒井哲さんを講師にお招きし、住まいの住宅史という観点から「日野宿本陣」について学ぶ講座を開きました。参加者は16名でした。

まずは、日野宿交流館3階大会議室にて1時間ほど、座学で支配階級・被支配階級、農民・武士の住まいの特徴を学び、その後、日野宿本陣へ移動。座学の内容を振り返りながら実際に日野宿本陣を見学しました。

新選組との関係から語られがちな日野宿本陣ですが、民家・武家屋敷、それぞれの特徴を掴みながら見学すると、徳川幕府の権威が揺らぎ始め、西洋の文化や知識が入ってきた変化の大きい時代に、日野宿名主・佐藤彦五郎は何を想い、何を願ってあの建物を建てたのか、ぼんやりと浮かび上がってくるように思います。



日野宿交流館での座学



酒井さんの解説付きで日野宿本陣内を見学

最後に cafe 花豆さんでコーヒーとケーキを味わいながら、今回の講座について参加者で感想を交流しました。

今回は参加者を日野宿発見隊メンバーとその関係者に絞りましたが、もっと広く日野宿本陣の歴史・建築史的価値が知られ、長く引き継がれることを期待しています。(Y. I. 記)

「お茶屋の松」の解説板を設置

日野市の東光寺地区と八王子市の小宮地区のちょうど市境付近、現在では東光寺から新旭橋を渡って小宮方面に抜ける直線道路が整備されていますが、かつては谷地川を渡ると道は左にそれ、そこから大きく右に弧を描きながら進むと、その道の中程、現在（令和5年）の富士レビオ八王子事業所の南側付近に、「お茶屋の松」といわれる枝ぶりの立派な黒松の大木が昭和50年代初頭までありました。

日野宿発見隊では日野宿の宝「日野用水」とも深く関わりのあるこの松の存在を市民の皆さんや八王子の皆さんに知っていただくと同年3月24日（日）、写真のような解説板を設置しました。設置にあたり、ご協力いただいた小宮町会の皆さん、写真を提供して下さった日野市郷土資料館、そして案内板を製作・設置して下さったBさんにこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、日野宿発見隊OBのSさんの強力なご支援もあったことを付記させていただきます。



昭和30年代

日野市郷土資料館提供

